

お茶の水女子大学学报

平成 5 年 9 月 1 日
お茶の水女子大学庶務課

目 次

- ◇関係法令 1
- ◇人 事 2
- ◇学 内 規 則 3
 - お茶の水女子大学予算委員会規程の一部を
改正する規程 3
- ◇学 事 4
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学入学者選抜要
項 4
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学大学院理学研
究科（修士課程）学生募集要項 15
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学大学院家政学
研究科（修士課程）学生募集要項 22
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学大学院人間文
化研究科（博士課程）学生募集要項 28
 - 平成 5 年度お茶の水女子大学公開講座要項 ... 35
 - 平成 5 年度科学研究費補助金配分決定一覧 ... 35
- ◇諸 報 38
 - 海外渡航 38
 - 研 修 40
 - レクリエーション行事 40
 - 給与等に関する勧告について 41
- ◇日 誌 54

関 係 法 令

【法 律】

○労働基準法及び労働時間の短縮の促進に関する臨時措置法の一部を改正する法律（法律79号、7月1日官報）

【政 令】

- 労働基準法及び労働時間の短縮の促進に関する臨時措置法の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備に関する政令（政令239号、7月1日官報）
- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令（政令243号、7月2日官報）
- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令（政令274号、8月5日官報）

【省 令】

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の一部を改正する省令（文部省令第29号、7月29日官報）
- 労働者災害補償保健法施行規則及び労働時間の短縮の促進に関する臨時措置法施行規則の一部を改正する省令（労働省令第25号、7月1日官報）
- 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令（大蔵省令第72号、7月15日官報）

【規 則】

- 人事院規則 9-17（俸給の特別調整額）の一部を改正する人事院規則（人事院規則 9-17-44、7月1日官報）
- 人事院規則 9-55（特地勤務手当等）の一部を改正する人事院規則（人事院規則 9-55-28、7月1日官報）

人 事

◎常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異動前の所属・官職
5. 6. 26	尾 田 幸 雄	附属小学校長事務代理(命)	公の名称	(文教育学部教授)
5. 7. 1	大 木 勢津子	文部技官(保健管理センター看護婦)	採 用	
"	柴 佳世乃	助手(大学院人文科学研究科)	配 置 換	助手(文教育学部)
"	富 山 弘	会計課用度係契約主任	"	会計課用度係用度主任
"	浅 田 成 一	会計課	転 任	東京大学経理部契約課
"	吉 原 道 隆	会計課用度係調達主任	昇 任	会計課
"	佐々木 信 一	復職	復 職	庶務課
5. 7. 8	尾 田 幸 雄	附属小学校長事務代理(免)	公の名称	(文教育学部教授)
5. 7. 9	宮 本 乙 女	育児休業承認 期間6. 3. 31まで	休 職	(附属中学校教諭)
"	菊地原 里 美	附属中学校教諭 任期6. 3. 31まで	臨時的任用	
5. 7. 19	森 田 彰 子	附属高等学校教諭 任期5. 8. 28まで	"	
5. 8. 1	篠 塚 英 子	教授(生活科学部)	昇 任	助教授(生活科学部)
"	"	教授(家政学部) 併任期間8. 3. 31まで	併 任	(生活科学部教授)
"	"	助教授(家政学部)併任解除	併任解除	"
"	阿 部 藤 子	職務復帰	復 職	附属小学校教諭
"	室 井 みゆき	平成5年7月31日限り 任期満了退職	退 職	"
5. 8. 7	能 村 堆 子	理学部長事務代理(命)	公の名称	(理学部教授)

◎非常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	期 間	備 考
5. 6. 30	美 濃 幸 子	辞職承認		入学主幹付
5. 7. 1	諸 田 裕 子	教務補佐員(文教育学部)	5. 7. 1~6. 3. 31	
"	野 村 典 代	事務補佐員(入学主幹付)	"	
"	塩 谷 優 香	任用更新	5. 7. 1~5. 8. 31	事務補佐員(理学部)
5. 7. 9	中 山 美由紀	辞職承認		文教育学部
5. 7. 16	廣 橋 永 子	教務補佐員(女性文化研究センター)	5. 7. 16~6. 3. 31	
5. 7. 23	小 杉 弘 子	辞職承認		附属図書館
5. 7. 31	山 谷 悦 子	"		文教育学部

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 7. 31	荒木 あゆみ	辞職承認		生活科学部
"	岸澤 初美	"		女性文化研究センター
"	内藤 知美	"		生活科学部
5. 8. 1	今井 真理子	任用更新	5. 8. 1~5. 11. 30	事務補佐員(庶務課)
"	萩野 正恵	教務補佐員(女性文化研究センター)	5. 8. 1~6. 3. 31	
"	石井 妙子	"	"	
5. 8. 9	小杉 弘子	事務補佐員(附属図書館)	5. 8. 9~5. 12. 13	

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 7. 1	吉岡 茂	講師(文教育学部)	5. 7. 1~5. 9. 30	東京都財務局係長
"	安岡 弘志	講師(理学部)	"	東京大学教授
"	北森 武彦	"	"	東京大学助教授
"	平川 一臣	"	"	北海道大学教授
5. 7. 13	キノガフィオーナ・エリザベス	辞職承認		附属中学校
5. 7. 16	柴崎 正行	講師(家政学部)	5. 7. 16~5. 9. 30	東京家政大学助教授
5. 7. 19	戸野塚 厚子	講師(附属中学校)	5. 7. 19~5. 7. 22	宮城学院女子大学講師

学 内 規 則

○平成5年お茶の水女子大学規則第27号

お茶の水女子大学予算委員会規程の一部を改正する規程を次のとおり定める。

平成5年7月21日

お茶の水女子大学長 太田 次郎

お茶の水女子大学予算委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学予算委員会規程(昭和34年12月23日制定)の一部を次のように改正する。

第7条中「一般教育委員会委員長、教職課程委員会委員長」を「カリキュラム委員会委員長」に改める。

附則

この規程は、平成5年7月21日から施行し、平成5年4月1日から適用する。

学 事

○平成6年度お茶の水女子大学入学者選抜要項

1. 学部・学科別募集人員

〔文教育学部〕 連続方式 (A日程)

学 科		入学定員	募集人員	備 考
哲	学 科	24	24	
史	学 科	23	23	
地	理 学 科	22	17	別募集 推薦入学5名
国	文 学 科	35	27	別募集 推薦入学8名
外 国 文学科	中国文学・中国語学	12	8	別募集 推薦入学4名
	英文学・英語学	37	37	
	仏文学・仏語学	8	8	
教 育 学 科	教 育 学	23	23	
	心 理 学	17	17	
舞 踊 教 育 学 科	舞 踊 教 育 学	18	18	
	音 楽 教 育 学	13	13	
計		232	215	

〔理 学 部〕 連続方式 (A日程)

学 科		入学定員	募集人員	備 考
数	学 科	25	18	別募集 推薦入学6名 別募集 帰国子女特別選抜若干名
物	理 学 科	25	20	別募集 推薦入学5名
化	学 科	25	20	別募集 推薦入学5名
生	物 学 科	27	20	別募集 推薦入学7名
情 報 科 学 科		40	32	別募集 推薦入学8名
計		142	110	

〔生活科学部〕 分離・分割方式 (前期日程・後期日程)

学 科	入学定員	募 集 人 員		備 考
		前期日程	後期日程	
生 活 環 境 学 科	70	46	12	別募集 推薦入学12名
人 間 生 活 学 科	76	50	12	別募集 推薦入学14名
計		146	24	

2. 出願資格

下記のいずれかに該当する女子で、かつ、平成6年度大学入試センター試験を受験した者

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成6年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成6年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第69条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成6年3月31日までにこれに該当する見込みの者

3. 出願期間

平成6年1月24日（月）から平成6年2月1日（火）まで

4. 出願方法

(1) 本学各学部別の出願について

〔文教育学部〕

文教育学部に出願する者は、同一学部内に限り第2志望まで認める。ただし、本学の個別学力検査で「数学」を選択した者は「地理学科」、「教育学科（心理学）」、「舞踊教育学科」の範囲内に限る。

〔理学部〕

理学部に出願する者の志望学科は1つの学科に限る。

〔生活科学部〕

生活科学部に出願する者は、「前期日程」又は「後期日程」のいずれであっても志望する学科は1つの学科に限る。なお、「前期日程」と「後期日程」で志望する学科が異なっても差し支えない。

(2) 本学出願者の他の国公立大学への出願について

学 部 名	選抜方式	他に出願できる国公立大学・学部
文教育学部 理 学 部	連続方式 〔A日程〕	「B日程グループ」又は本学を含む「後期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。
生活科学部	分離・分割方式 〔前期日程〕	「B日程グループ」又は本学を含む「後期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。
	分離・分割方式 〔後期日程〕	本学を含む「A日程グループ」又は「前期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。

(注) 「B日程グループ」には、私立産業医科大学を含む。

5. 入学者選抜方法

(1) 入学者の選抜

【文教育学部・理学部・生活科学部（前期日程）】

入学者の選抜は、大学入試センター試験成績、本学の個別学力検査成績（文教育学部舞踊教育学科は実技検査を含む。）、調査書並びに健康診断書を総合して合格者を判定する。

【生活科学部（後期日程）】

入学者の選抜は、大学入試センター試験成績、調査書並びに健康診断書を総合して合格者を判定する（本学の個別学力検査は実施しない）。

(2) 2段階選抜

【文教育学部・理学部・生活科学部（前期日程）】

入学志願者が募集人員を大幅に上回り、本学の個別学力検査等を適切に実施することが困難な場合は、第1段階選抜を行い、その合格者に対して本学の個別学力検査（文教育学部舞踊教育学科は実技検査を含む。）を行う。

（選抜方法）

本学各学部の定める「大学入試センター試験で受験を要する教科等」の各教科・科目の得点（本学が定める配点）を合計したものを受験者成績とし、得点順に各学部・学科等の募集人員の約6倍を、第1段階選抜合格者とする。

【生活科学部（後期日程）】

第1段階選抜は、実施しない。

6. 大学入試センター試験で受験を要する教科等

学部等名		受験を要する 教科名等	受験を要する教科名	受験を 要する 教科数
文 教 育 学 部			国語 社会 (倫、日、世、地理、現社*から1) 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 理科 (物、化、生、地、理I*から1) 外国語 (英、独、仏から1)	5教科
理 学 部			国語 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 理科 (物、化、生、地、理I*から1) 外国語 (英、独、仏から1)	4教科
生活科学部	生活環境学科	前期日程	国語 社会 (倫、日、世、地理、現社*から1) 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 理科 (物、化、生、地、理I*から1) 外国語 (英、独、仏から1)	5教科
		後期日程	国語 社会 (倫、日、世、地理、現社*から1) 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 理科 (物、化、生、地、理I*から1) 外国語 (英、独、仏から1)	5教科
	人間生活学科	前期日程	国語 社会 (倫、日、世、地理、現社*から1) 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 理科 (物、化、生、地、理I*から1) 外国語 (英、独、仏から1)	5教科
		後期日程	国語 数学 (「数I」と「数II、簿※、工※から1」) 外国語 (英、独、仏から1)	3教科

* 「現代社会」及び「理科I」は、高等学校の「普通科」及び「理数科」の卒業（見込み）者は、解答できない。

※ 「簿記会計I・II」及び「工業数理」は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者のみ解答できる。

7. 本学の入学試験

(1) 個別学力検査等試験期日

文教育学部 平成6年2月25日(金)、舞踊教育学科実技検査は2月26日(土)

理 学 部 平成6年2月25日(金)

生活科学部

〔前期日程〕 平成6年2月25日(金)

〔後期日程〕 個別学力検査は実施しない

(2) 個別学力検査教科・科目

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目		備 考
※ 文教育学部	哲 学 科 史 学 科 地 理 学 科 国 文 学 科 外 国 文 学 科 教育学科(教育学) 教育学科(心理学) 舞 踊 教 育 学 科	A	国語(国語Ⅰ・Ⅱ、古典) 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)	舞踊教育学科(舞踊教育学、音楽教育学)の志望者にはほかに実技検査を行う
	地 理 学 科 教育学科(心理学) 舞 踊 教 育 学 科	B	数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)	
理学部	数 学 科		数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 理科(物理、化学、生物から1科目選択)	
	物 理 学 科		数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 理科(物理)	
	化 学 科		数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 理科(「化学」と「物理、生物から1科目選択」)	
	生 物 学 科		数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 理科(「生物」と「物理、化学から1科目選択」)	
	情 報 科 学 科		数学(数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 数学・理科(数学、物理、化学、生物から2科目選択)	

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目		備 考	
☆ 生 活 科学部	生活環境学科	前期日程	数学 (数 I、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 外国語 (英語 I・II・IIB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)		
		後期日程	課さない。		
	人間生活学科	前期日程	A	国語 (国語 I・II、古典) 外国語 (英語 I・II・IIB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)	
			B	数学 (数 I、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 外国語 (英語 I・II・IIB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)	
		後期日程	課さない。		

* 数学のうち確率・統計については、高等学校学習指導要領の確率・統計の内容のうち「(1)資料の整理」、「(4)確率分布」及び「(5)統計的な推測」を除く。

※ 地理学科、教育学科 (心理学) 及び舞踊教育学科志望者は、A・Bいずれかで受験すること。

☆ 人間生活学科前期日程志望者は、A・Bいずれかで受験すること。

(3) 実技検査

○ 舞踊教育学志望者に次の2種の検査を行う(第2志望とした場合も同じ)。

① ダンス(全員に課する)

ア. 与えられた基礎運動

イ. 創作(各種舞踊に基づいた創作も可)

② スポーツ(次のア～オから1種目を選択)

ア. 陸上競技(短距離走及び走り幅跳び)

イ. 器械運動(マット運動)

ウ. バレーボール

エ. バスケットボール

オ. テニス(硬式又は軟式)

○ 音楽教育学志望者に次の検査を行う(第2志望とした場合も同じ)。

① ソルフェージュ

ア. 聴音: 1～4声部

イ. 新曲視唱

② 声楽

下記の(i)、(ii)、(iii)のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。

(i) イタリア古典歌曲(原語)1曲を自由選択

(ii) イタリア古典歌曲(原語)1曲[(i)に同じ]、及び日本歌曲1曲をそれぞれ自由選択

(iii) イタリア古典歌曲(原語)1曲[(i)に同じ]、及びアリア(原語・原調)1曲を自由
選択

なお、声楽は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜(複写譜も可)に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。(返却しない。)

③ ピアノ

下記の(i)、(ii)、(iii)のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。繰返しはしないこと。

(i) J.S.バッハ作曲の鍵盤音楽(3分以内)から1曲を自由選択

(ii) J.S.バッハの作品1曲[(i)に同じ]、及びベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択(ただし、緩徐楽章を除く。)

(iii) J.S.バッハの作品1曲[(i)に同じ]、及びショパンの練習曲集(作品10、作品25)から2曲を自由選択

8. 試験教科・科目別配点

文教育学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験				大学の試験			合計	備考			
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	国語			数学	外国語	計
全科 A	100	50	100	50	100	400	200	—	200	400	800	
地理学科												
教育学科 (心理学)	100	50	100	50	100	400	—	200	200	400	800	舞踊教育学科・音楽教育学は、実技検査を課し、総合判定の資料とする。
舞踊教育学科												

理学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験				大学の試験						合計	備考		
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	数学		理学				化学	生物
数学科							100☆	200	—	(100)	(100)	400		
物理学科							100☆	—	100	200	—	400		
化学科	50	—	50	50	100	250	100☆	—	—	(100)	200	(100)	400	
生物学科							100☆	—	—	(100)	(100)	200	400	
情報科学科							100☆	100	(100)	(100)	(100)	(100)	400	

生活科学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験				大学の試験				合計	備考		
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	国語	数学			外国語	計
生活環境学科	100	50	100	50	100	400	—	200	200	400	800	
後期日程	100	50	200	100	150	600	—	—	—	—	600	
人間生活学科	A	100	50	100	100	400	200	—	200	400	800	
後期日程	B	—	—	—	—	—	—	200	200	400	800	
	後期日程	200	—	200	—	600	—	—	—	—	600	

(注) 三学部とも大学入試センター試験の理科を2科目以上受験した場合は、高得点の科目の成績を用いる。

9. 身体に障害のある者の出願

本学に入学を志望する者のうち、身体に障害があり、受験上特別な措置を希望する者については、事前協議を行うので、出願に先立ち本学入学主幹室に申し出て（電話可）、「受験特別措置協議申請書」を受領のうえ、12月20日（月）までに必要書類（医師の診断書等）を添えて提出すること。

なお、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者のうち、大学入試センター試験で代筆解答を希望する者については、大学入試センター試験出願以前のできるだけ早い時期に申し出ること。

10. 学生募集要項（細目）の交付

入学者選抜に関する細目を記載した「平成6年度お茶の水女子大学学生募集要項（細目）」（出願関係書類添付）の交付は、平成5年11月中旬から行う。

〔交付場所〕 お茶の水女子大学入学主幹室及び各学部事務部

〔郵送による請求方法〕

郵送を希望する者は360円切手を貼った返信用封筒角型2号（23.9×33.1cm）に宛名を明記したものを同封の上、封筒の表に「募集要項請求」と朱書きして、志望学部の事務部へ請求すること。

なお、「募集要項（細目）」は、全学部の内容を網羅しており、各学部共通である。

請 求 先 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 ○○学部事務部

推 薦 入 学

学 部 名	文 教 育 学 部	理 学 部	生 活 科 学 部
募集人員	地理学科 入学定員のうち5名 国文学科 入学定員のうち8名 外国文学科（中国文学・中国語学） 入学定員のうち4名	数学科 入学定員のうち6名 物理学科 入学定員のうち5名 化学科 入学定員のうち5名 生物学科 入学定員のうち7名 情報科学科 入学定員のうち8名	生活環境学科 入学定員のうち12名 人間生活学科 入学定員のうち14名
出願資格及び推薦の要件	平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊸の者 ② 志望学科に関連する科目〔地理学科の関連科目は地理又は地学、国文学科は国語、外国文学科（中国文学・中国語学）は国語又は外国語〕において特に優れた能力と意欲を有する者	平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊸の者 ② 志望学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者	平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊸の者 ② 志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について小論文試験と口述試験を行い総合的に判定する。なお、小論文及び口述試験は、平成5年11月下旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について口述試験（生物学科については小論文試験も課す。）を行い総合的に判定する。なお、口述試験（生物学科は小論文も含む。）は、平成5年12月上旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について口述試験を行い総合的に判定する。なお、口述試験は、平成5年12月上旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。
出願時期	文教育学部	平成5年11月1日（月）～11月8日（月）	
	理学部 生活科学部	平成5年10月25日（月）～11月1日（月）	
推薦入学募集要項請求方法	8月下旬から配付する。郵送を希望する者は、250円切手を貼った返信用封筒角型2号（23.9×33.1cm）に宛名を明記したものを同封し、封筒の表に「推薦入学募集要項請求」と朱書して、志望学部の事務部へ請求すること。		
請求先	お茶の水女子大学 ○○○学部事務部 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号		

帰国子女特別選抜

学 部 名	理 学 部
募 集 人 員	数 学 科 : 入学定員のうち若干名
出 願 資 格	<p>平成5年度末までに高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、外国において2年以上継続して外国の正規の学校教育を受けた者。 ただし、帰国してから出願までの期間は、外国での正規の学校在学期間をこえないこと。</p> <p>※ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者を含む。</p> <p>(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。</p>
選 考 方 法	<p>入学者の選抜は、第1次選考、第2次選考に分けて行う。</p> <p>① 第1次選考：出願書類を資料として行う。</p> <p>② 第2次選考：第1次選考合格者に対し、数学、日本語による小論文及び口述試験を行う。</p> <p>なお、第2次選考は、平成5年12月上旬に行い、選考の結果は、12月中旬本人に通知する。</p> <p>(注) 数学の内容は、数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分</p>
出 願 時 期	平成5年10月18日(月)～11月1日(月)
帰国子女特別選抜募集要項請求方法	8月下旬から配付する。郵送を希望する者は、250円切手を貼った返信用封筒角型2号(23.9×33.1cm)に宛名(日本国内の連絡先に限る)を明記したものを同封し、封筒の表に「帰国子女募集要項請求」と朱書きして、下記へ請求すること。
請 求 先	お茶の水女子大学 理学部事務部 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

○平成6年度お茶の水女子大学大学院理学研究科（修士課程）
学 生 募 集 要 項

1. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成6年3月卒業見込みの者
- (2) 文部大臣の指定した者
- (3) 外国の大学を卒業した者
- (4) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については第2次募集で行う（数学専攻・物理学専攻・生物学専攻）。
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

2. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）、調査書等を総合して決定する。
- (2) 外国人学生の選抜は、本学大学院外国人学生規程による。

3. 募集人員及び学力検査

専攻名	募集人員	試験日時	試験科目
数 学	10名	9月7日（火） 9：20～11：20 11：30～12：30 13：30～15：30 16：30～	一般・基礎教育科目（微積分・線形代数・位相空間） 外国語（英語） 専門科目（数学） 口述試験
物 理 学	10名	9月7日（火） 9：00～11：00 11：15～12：00 13：00～15：00 16：30～	一般・基礎教育科目（物理学） 外国語（英語） 専門科目（物理学） 口述試験
化 学	10名	9月7日（火） 9：30～12：00 13：00～14：30 14：45～16：45	一般・基礎教育科目（「化学」及び「物理学」又は「生物学」）※ 外国語（英語） 専門科目（化学）
		9月8日（水） 10：00～	口述試験
生 物 学	10名	9月7日（火） 10：00～12：00 13：00～16：30 16：30～	外国語（英語） 専門科目（生物学の諸分野から出題した約12問から4問を選択） 口述試験

※ 「物理学」又は「生物学」のうち1科目を選択すること。ただし、志望区分「化F」志望者は、第1志望、第2志望を問わず「物理学」を選択すること。

4. 出願期間

平成5年8月23日(月)から平成5年8月31日(火)まで。

なお、郵送する場合は、必ず書留で『大学院理学研究科入学願書』と朱書すること。
(8月31日消印有効)

5. 出願手続

(1) 願書受付

ア 場 所 お茶の水女子大学理学部事務部
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
☎ (03) 3943-3151(大代表)

イ 時 間 土・日曜日を除く午前9時から午後3時まで

(2) 提出書類等

ア 志願者名票、受験票及び履歴書(本学所定の用紙)

イ 卒業(又は見込)証明書

ウ 健康診断書(本学所定の用紙)

エ 調 査 書(本学所定の用紙)

オ 検 定 料 26,000円(現金又は郵便為替)

カ 受験承諾書 在職者及び他の大学院在籍者は、所属長の承諾書を提出すること。
(様式随意)

キ 返信用封筒 郵送の場合に限り、あて先を明記して、62円切手を貼った定型郵便物用封筒を同封すること。

6. 合格者の発表

(1) 9月17日(金)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示するとともに、合格通知書を送付する。

(2) 入学手続関係書類は、平成6年3月中旬に送付する。

7. 入学科及び授業料

(1) 入 学 料 260,000円

(2) 授業料年額 411,600円

8. その他

(1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。

(2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、175円切手を貼った角型2号封筒(33cm×24cm)を同封すること。

(3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

9. 第2次募集

実施の有無については、合格発表の日に公示する。

10. 大学所在地案内

都営バス 大塚2丁目停留所前

地下鉄 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分

〃 有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分

理学研究科 (修士課程) 各専攻の研究概要

1. 数学専攻

志望区分	担当教官	主な研究分野
数 A (解析学)	教授*澤島侑子 教授高村幸男 教授波辺ヒサ子 教授真島秀行 助教授前田ミチエ	関数解析と実解析 関数解析と偏微分方程式 ポテンシャル論 微分方程式論 測度論
数 B (代数学)	教授藤原正彦 助教授榎本陽子 講師小木曾啓示	数論 群論及び表現論 代数幾何学
数 C (幾何学)	教授小川洋輔 助教授塚田和美 講師小野薫	微分幾何 微分幾何 微分幾何及び位相幾何
数 D (情報数学)	教授小山敏子 教授笠原勇二 助教授竹尾富貴子 助教授吉田裕亮	離散数学・群論 確率論 情報解析学・作用素論 応用解析学・作用素環論

* 本年度は研究指導は行わない。

2. 物理学専攻

志望区分	担当教官	主な研究分野
理 論	教授柴田文明 教授佐藤浩史 教授太田隆夫 教授菅本晶夫 助教授藤代一成 助教授森川雅博 講師亀井博理	統計力学、不可逆過程の理論 原子・分子の衝突の理論、計算物理学 物性理論、非平衡開放系の理論 素粒子論 コンピュータグラフィックス 宇宙物理学 物理学史
実 験	教授田中翠 教授伊藤厚子 教授富永靖徳 助教授浜谷望	磁性体の構造と相転移 (メスバウア分光・磁化測定) ランダム磁性体の静的・動的構造及び相転移 誘電体・生体物質のラマン分光と誘電分散 極端条件下の物質構造と相転移

3. 化学専攻

志望区分	担当教官	主な研究分野
化 A (物理化学)	教授 平野 恒夫 助教授 今野 美智子 助教授 堀 佳也子	分子の構造、反応性に関する量子化学 生体物質の結晶構造及び反応機構の研究 液晶相形成物質の構造と性質に関する研究
化 B (無機化学)	教授 福田 豊 助教授 益田 祐一	機能性錯体の合成と反応に関する研究 溶液内の局所構造とそのダイナミックス
化 C (有機化学)	教授 前田 侯子 助教授 永野 肇	有機光化学反応の研究 天然物有機化学—主としてテルペン類の合成研究
化 D (生物化学)	教授 松本 勲武 助教授 小川 温子	動植物レクチンの構造と機能に関する研究 複合糖質の構造と機能に関する研究
化 E (分析化学)	教授 富田 功 助教授 藤枝 修子	分析化学的に興味のある化学反応、特にイオン交換反応の研究 化学現象の計測に関する研究
化 F (構造化学)	教授 細矢 治夫 助教授 長嶋 雲兵	分子の電子構造、化学情報の研究 計算化学

4. 生物学専攻

担当教官	主な研究分野
教授 能村 堆子	細胞運動機構
教授 清水 碩	植物の老化、クロロフィルの代謝
教授 遠山 益	光合成器官の形態形成、細胞組織培養法の開発
教授 石和 貞男	ショウジョウバエを主とした進化・集団遺伝学
教授 馬場 昭次	繊毛運動の生理学
教授* 内嶋 善兵衛	気象・気候環境の変化と植物生産
助教授 山下 貴司	単子葉植物の発生と系統
助教授 林 正男	高等動物の生化学・細胞生物学、フィブロネクチン、ヒトロネクチン、がん転移
助教授 渡辺 洋子	海綿動物を主とした発生及び系統
助教授 芦原 坦	高等植物の代謝制御機構の解析
助教授 根本 心一	棘皮動物を主とした発生機構 (主に臨海実験所で研究)
講師 室伏 きみ子	真核細胞の生化学、細胞増殖制御

* 本年度は研究指導は行わない。

大学院理学研究科概要

1. 目的

お茶の水女子大学大学院は、本学の目的使命に則り、高度の専門学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 履修方法及び課程の修了

(1) 各専攻の授業科目（別表）について、30 単位以上修得しなければならない。

ただし、指導教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合には、指導教官が指定した他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を履修し、これを修士課程の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2 年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

3. 学位の授与

理学研究科の課程を修了した者には、本学学位規則により「修士（理学）」の学位を授与する。

4. 授業科目一覧

数学専攻

授業科目	単位数	代 数 学 特 論 IV	2
代 数 学 特 論 V	2	代 数 学 特 論 V	2
代 数 学 特 論 VI	2	代 数 学 特 論 VI	2
代 数 学 特 論 VII	2	代 数 学 特 論 VII	2
代 数 学 特 論 VIII	2	代 数 学 特 論 VIII	2
幾 何 学 特 論 I	2	幾 何 学 特 論 I	2
幾 何 学 特 論 II	2	幾 何 学 特 論 II	2
幾 何 学 特 論 III	2	幾 何 学 特 論 III	2
幾 何 学 特 論 IV	2	幾 何 学 特 論 IV	2
幾 何 学 特 論 V	2	幾 何 学 特 論 V	2
幾 何 学 特 論 VI	2	幾 何 学 特 論 VI	2
幾 何 学 特 論 VII	2	幾 何 学 特 論 VII	2
幾 何 学 特 論 VIII	2	幾 何 学 特 論 VIII	2
応 用 数 学 特 論 I	2	応 用 数 学 特 論 I	2
応 用 数 学 特 論 II	2	応 用 数 学 特 論 II	2
応 用 数 学 特 論 III	2	応 用 数 学 特 論 III	2
応 用 数 学 特 論 IV	2	応 用 数 学 特 論 IV	2
応 用 数 学 特 論 V	2	応 用 数 学 特 論 V	2
応 用 数 学 特 論 VI	2	応 用 数 学 特 論 VI	2
応 用 数 学 特 論 VII	2	応 用 数 学 特 論 VII	2
応 用 数 学 特 論 VIII	2	応 用 数 学 特 論 VIII	2
数 学 講 究 I	16	数 学 講 究 I	16
数 学 講 究 II	16	数 学 講 究 II	16
数 学 講 究 III	16	数 学 講 究 III	16
数 学 講 究 IV	16	数 学 講 究 IV	16
数 学 講 究 V	16	数 学 講 究 V	16

物理学専攻

授業科目	単位数			
		固体特論	II	2
		固体特論	III	2
流体力学特論	2	固体特論	IV	2
流体力学特論	2	固体特論	V	2
相對論特論	2	固体特論	VI	2
数理物理学特論	2	磁性体特論	I	2
数理物理学特論	2	磁性体特論	II	2
計測特論	2	磁性体特論	III	2
計測特論	2	磁性体特論	IV	2
計測特論	2	低温物性特論	I	2
分子特論	2	低温物性特論	II	2
分子特論	2	物理学特論	I	2
分子特論	2	物理学特論	II	2
分子特論	2	物理学特論	III	2
統計力学特論	2	物理学特論	IV	2
統計力学特論	2	物理学特論	V	2
統計力学特論	2	物理学特論	VI	2
統計力学特論	2	物理学特論	VII	2
素粒子特論	2	物理学特論	VIII	2
素粒子特論	2	物理学特論	IX	2
素粒子特論	2	物理学特論	X	2
素粒子特論	2	物理学特論	XI	2
原子核特論	2	物理学特論	XII	2
原子核特論	2	物理学特論	XIII	2
原子核特論	2	物理学特論	XIV	2
原子核特論	2	物理学特論	XV	2
固体特論	2	特別研究		14

化学専攻

授業科目	単位数	生物化学特論 III	2
物性物理化学	2	生物化学特論 IV	2
反応物理化学	2	生物化学演習 I	2
構造物理化学	2	生物化学演習 II	2
物理化学特論 I	2	物質代謝特論	2
物理化学特論 II	2	分析化学特論 I	2
物理化学演習 I	2	分析化学特論 II	2
物理化学演習 II	2	分析化学特論 III	2
無機化学特論 I	2	分析化学特論 IV	2
無機化学特論 II	2	分析化学演習 I	2
無機化学特論 III	2	分析化学演習 II	2
無機化学特論 IV	2	機器分析特論	2
無機化学演習 I	2	構造化学特論 I	2
無機化学演習 II	2	構造化学特論 II	2
天然物有機化学	2	構造化学特論 III	2
有機合成化学	2	構造化学特論 IV	2
有機化学特論 I	2	構造化学演習 I	2
有機化学特論 II	2	構造化学演習 II	2
有機化学特論 III	2	化学特論 I	2
有機化学演習 I	2	化学特論 II	2
有機化学演習 II	2	化学特論 III	2
生物化学特論 I	2	化学特論 IV	2
生物化学特論 II	2	化学特論 V	2
		特別研究	14

生物学専攻

授業科目	単位数	生化学特論	2
動物形態学特論	2	環境植物学特論	2
動物発生学特論 I	2	生物学特論 I	2
動物発生学特論 II	2	生物学特論 II	2
動物生理学特論	2	生物学特論 III	2
動物生理化学特論	2	生物学特論 IV	2
細胞生物学特論 I	2	生物学特論 V	2
細胞生物学特論 II	2	生物学特論 VI	2
細胞生物学特論 III	2	生物学特論 VII	2
植物形態学特論 I	2	生物学特論 VIII	2
植物形態学特論 II	2	生物学特論 IX	2
植物生理学特論 I	2	生物学特論 X	2
植物生理学特論 II	2	生物学特論 XI	2
植物生理学特論 III	2	生物学特論 XII	2
遺伝学特論 I	2	生物学特論 XIII	2
遺伝学特論 II	2	生物学特論 XIV	2
遺伝学特論 III	2	生物学特論 XV	2
発生生物学特論	2	特別研究	14

○平成6年度お茶の水女子大学大学院家政学研究科（修士課程）
学 生 募 集 要 項

1. 専攻名及び募集人員

専攻名	募集人員
児童学専攻	8
食物学専攻	10
被服学専攻	8
家庭経営学専攻	6

2. 修業年限 2年

3. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成6年3月卒業見込の者
- (2) 本学の大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

4. 選考方法 入学者の選考は、筆記試験、口述試験及び調査書等を総合して決定する。

5. 出願手続

- (1) 入学願書・写真票及び受験票（用紙は本学所定のもの）
- (2) 卒業証明書又は卒業見込証明書（本学出身者は不要）
- (3) 推薦書 指導教官又は主任教官等により作成されたもの（形式随意、用紙はB5版縦長横書とする。）（本学出身者は不要）
- (4) 調査書 用紙は本学所定のもの
- (5) 健康診断書 用紙は本学所定のもの
- (6) 写真 正面上半身の名刺型（4.5 cm×5.5 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚。（写真票及び受験票に貼付）
- (7) 受験許可書 在職中の者は所属長の許可書を添えること。
- (8) 入学検定料 26,000円

上記出願書類を一括し、検定料を添えて所定の期日までに本学に提出すること。

※郵送（締切日までの消印有効）により出願する際は、書留速達とし、「大学院家政学研究科入学願書在中」と朱書すること。

なお、検定料（郵便為替とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」とだけ記入）と受験票返送用封筒（あて先を表記し、62円切手を貼付）を同封すること。

6. 出願期間・選考期日・願書受付場所

専攻名	第1次募集		第2次募集		備 考
	出 願 期 間	選考期日	出 願 期 間	選考期日	
児 童 学 専 攻	平成5年	平成5年 9月7日 (火)	平成6年	平成6年 2月1日 (火)	各専攻で第1次募集の合格者が定員に満たない場合には第2次募集を行うことがある。
食 物 学 専 攻	8月23日(月)		1月7日(金)		
被 服 学 専 攻	⋮		⋮		
家 庭 経 営 学 専 攻	8月27日(金)		1月13日(木)		

受付時間 午前9時～12時 午後1時～3時

注) 土曜日は願書受付を行いませんので、御注意願います。

受付場所 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号 電話(03)3943-3151 (大代表)

本学生生活科学部事務部

(都バス大塚2丁目又は地下鉄茗荷谷駅あるいは護国寺駅下車)

7. 日時割及び試験場所

(1) 筆記試験・口述試験

専 攻 名	筆 記 試 験			口 述 試 験 14:40～
	第一外国語 9:30～10:45	第二外国語 10:45～11:30	専 門 科 目 12:30～14:30	
児 童 学 専 攻	英 語 I	英 語 II	児童学(発達・保健・臨床・福祉・保育・文化)	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。

ア. 児童学専攻志願者は、①大学院における研究計画書(B5版・400字・横書原稿用紙5枚)及び②口述試験面接票を出願の際提出すること。

専 攻 名	筆 記 試 験		口 述 試 験 15:40～
	外 国 語 10:00～11:30	専 門 科 目 12:30～15:30	
食 物 学 専 攻	英 語	1) 一般化学 2) 栄養学・食品学・食品貯蔵学・調理学	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。

専攻名		筆記試験			口述試験 15:40～
		第一外国語 9:30～10:30	※第二外国語 10:45～11:30	専門科目 12:30～15:30	
被服学専攻	被服材料学 被服整理学	英語	英語	1) 一般化学(有機・無機・物理化学) 2) 被服材料学(繊維化学を含む)・被服整理学(染色化学を含む)	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。
	被服構成学		英語	1) 被服構成学 2) 被服環境学	
	被服美学		英語, 独語, 仏語の内一	1) 服飾美学 2) 服飾史(日本・西洋) 3) 論文	
	流行情報論		英語, 独語, 仏語の内一	1) 流行情報論 2) 服飾史(日本・西洋) 3) 論文	

ア. ※第二外国語の受験に際しては辞書を携行して差支えない。

イ. 被服学専攻志願者は、選択科目名を入学願書に記入すること。

専攻名		筆記試験			口述試験 15:40～
		第一外国語 9:30～10:30	第二外国語 10:45～11:30	専門科目 12:30～15:30	
家庭経営学専攻		英語 I (英文和訳)	英語 II (和文英訳)	家政学原論・家庭経済学・家族関係学	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。

ア. 英語IIの受験に際しては辞書を携行して差支えない。

イ. 家庭経営学専攻志願者は、①大学院における研究計画及び②卒業研究要旨又はこれにかわるものをそれぞれB5版・400字・横書原稿用紙2枚にまとめて出願の際提出すること。

(2) 試験場所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)

8. 入学料及び授業料

入 学 料 260,000 円

授 業 料 (年間) 411,600 円

9. 合格者発表

第1次募集で合格した者には平成5年9月17日(金)、第2次募集を行った場合は6年2月10日(木)に本人にその通知をするとともに学内にその氏名を掲示する。

10. 健康診断

健康診断は健康診断書による。この診断書による検査の結果、本学において更に必要と認められた者に対しては精密検査を行う。

11. 注意事項

- (1) 出願書類等の請求又は照会のあて先はすべて本学「生活科学部事務部」とし、返信用封筒(あて先を表記し175円切手を貼付)を同封すること。
- (2) 出願手続後の書類変更や検定料の払い戻しはできない。
- (3) 第2次募集実施の有無は第1次の合格発表と同時に発表する。
- (4) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。
- (5) 外国人留学生に関しては、出願書類等が異なるため、本学の学生部学務課留学生係が取り扱うので、同係に問い合わせること。

お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程概要

1. 目的及び使命

本学大学院は、本学の目的に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 専攻及び学生定員

家政学研究科に次の専攻をおき、学生定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	総定員
児童学専攻	8	16
食物学専攻	10	20
被服学専攻	8	16
家庭経営学専攻	6	12
計	32	64

3. 授業科目履修方法及び課程の修了

(1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻課程の授業科目について30単位以上履修しなければならない。

ただし、専攻課程担当の指導教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、指導教官の指定する他の専攻課程・他研究科及び学部の授業科目を履修して、これを修士課程の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

4. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士の学位を授与する。

5. 専攻別授業科目・担当教官

専攻	授業科目名	担当教官	授業科目名	担当教官
児童学専攻	人間関係学特論	教授 黒田淑子	児童学特別研究	全専任教官
	児童心理学特論	助教授 無藤隆子	児童学特別講義	教授 原ひろ子
	児童文化特論	教授 本田和子	児童発達学特論	講師 柴坂(兼)
	臨床心理学特論	教授 飯田長代	児童環境学特論	" "
	発達臨床学特論	" "	児童臨床学特論	" "
	発達神経学特論	教授 水野悌一人	児童保健学特論	" "
	言語治療特論	講師 山本谷信	児童社会特論	" "
	教育法制特論	教授 利谷定	児童理論特論	" "
	青少年問題特論	講師 未杉田孝夫	児童臨床特別実習	" "
	比較家族思想史特論	" "		
食物学専攻	栄養化学特論 I	教授 荒川信彦	生物化学特論第II	教授 倉田忠男
	栄養化学特論 II	助教授 大塚昌夫	環境生化学特論	教授 大橋昌典
	食品化学特論 I	教授 小林彰久	食品微生物学特論	助教授 大富永
	食品化学特論 II	助教授 久保田紀久	食物学特別研究	全専任教官
	食品貯蔵学特論	教授 本間清一	栄養生理学特論	講師 (兼)
	食品貯蔵学特論 II	助教授 村田常子	特殊栄養学特論	" "
	調理学特論 I	助教授 島田淳敬	食品物性特論	" "
	調理学特論 II	助教授 畑江敬	食物学特別講義	" "
	生物化学特論第I	教授 五十嵐脩		
	被服学専攻	被服材料学特論	教授 小川昭二郎	服飾史特論 I
被服材料化学特論		" "	服飾史特論 II	" "
生活材料学特論		助教授 仲西正	流行情報特論	教授 板倉壽郎
生活材料化学特論		" "	情報設計特論	" "
被服整理学特論		教授 中島利誠	被服学輪講	全専任教官
染色化学特論		助教授 中駒素子	被服学特別研究	" "
洗浄科学特論		" "	被服物理学特論	講師 (兼)
繊維界面化学特論		助教授 會川義寛	被服物科学特論	" "
被服環境学特論		教授 田中辰明	高分子科学特論	" "
被服構成学特論 I		助教授 長谷部ヤ	繊維構造論	" "
被服構成学特論 III	" "	被服衛生学特論	" "	
被服構成学特論 II	助教授 田邊新一	応用界面化学	" "	
被服構成学特論 IV	" "	被服構成学特論 V	" "	
服飾美学特論 I	教授 小池三枝	被服構成学特論 VI	" "	
服飾美学特論 III	" "	芸術学特論	" "	
服飾美学特論 II	助教授 德井淑子	被服学特別講義	" "	
服飾美学特論 IV	" "			
家庭経営学専攻	家政学原論特論 I	教授 富田守治	家族関係学特論	教授 湯沢雍彦
	家政学原論特論 II	助教授 松浦秀治	家庭法律学特論	教授 利谷信義
	生活史特論	" "	家庭科教育特論 I	助教授 牧野カツコ
	生活行動論特論	教授 水野悌一	家庭科教育特論 II	" "
	家庭管理学特論 I	教授 水富田一守	居住学特論	未定
	家庭管理学特論 II	助教授 鈴木恵美子	家庭経営学特別講義	教授 原ひろ子
	人間生体学特論 I	" "	家庭経営学特別研究	助教授 原館かおる
	家庭経済学特論	助教授 篠塚英美子	家庭経営学特別研究	全専任教官
	家庭経済学特論 II	助教授 篠御船美智子	人間行動学特論 I	講師 柴坂寿子
	消費者経済学特論	助教授 犬塚伝孝	人間行動学特論 II	" "
家族社会学特論	教授 袖井孝	消費者行動論	講師 (兼)	
比較家族研究特論	" "			

○平成6年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）
学 生 募 集 要 項

入学試験は、＜平成5年9月
平成6年3月＞に行う。

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
比較文化学専攻	16名
人間発達学専攻	13名
人間環境学専攻	9名

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成6年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	①修士課程を修了した者 ②修士課程在学者で修士論文を 本研究科に提出可能な者	〔修士課程に在学し9月試験を〕 受験する者
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文以外に別主題について 公表した論文があり、その論文を主論文 とすることを希望するときは、その旨を 明記し、添付すること。 また、修士論文提出後の研究により修 士論文を補足する研究成果のある場合に は、その論文を添付することができる。 提出論文は、試験終了時に返却する。	2部 修士論文の中間報告を5,000字～ 15,000字程度（横書き、A4版用紙） にまとめること。（注1） なお、公表された研究成果があればそれを 添付することができる。
	※ 修士論文をもたない場合は、これに 代わるものを提出すること。	

3	修士論文（主論文）の要旨	修士論文に代わるものの要旨
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	研究計画書
6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。		
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	推薦書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。（本学所定の用紙）
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
7	検定料	26,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
8	受験許可書	在職中の者及び他の大学院に在学中の者は、所属長又は当該大学長が作成したもの。
9	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒に宛名を明記し272円切手を貼付すること。

注1) 英語・独語・仏語及び中国語により作成されたものも可。

ただし、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成5年 9月1日（水）～9月7日（火）	平成6年 2月2日（水）～2月8日（火）
言語・論文試験	9月27日（月）	3月2日（水）
口述試験	9月28日（火）～9月30日（木）	3月3日（木）～3月5日（土）
合格発表 ☆	10月8日（金）	3月14日（月）

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示するとともに、本人あてに合格通知書を郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試：平成5年8月26日(木) ～ 8月31日(火)

3月入試：平成6年1月26日(水) ～ 1月31日(月)

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。

願書受付場所： お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	10:00～11:15	13:00～14:20	
比較文化学専攻 文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座	論 文	言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)
科学文化論講座		言 語(英語)	
人間発達学専攻 発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座		言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座		言 語(英語)	

注1) 「論文」は人文・社会系と自然系にわかれているので、いずれかを選択すること。

注2) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。
3. 「日本古典語」は、古文・日本漢文・古文書とし、3種目の中から2種目を試験場で選択すること。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学科及び授業料

入 学 料 260,000円

授 業 料 411,600円(年額)

7. 入学手続

修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

8. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、庶務課大学院係に問い合わせられたい。

平成6年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）概要

1. 目的

本学の博士課程は、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、もって、学術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 3年（本学の博士課程は、修士課程とは独立の課程である。）

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達学専攻	人間環境学専攻	計
入学定員	16	13	9	38

4. 履修方法及び課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

なお、学位論文提出にあたっては、入学試験で受験した言語以外の外国語1ヶ国語（ただし、日本古典語は外国語とはみなさない。）の試験に合格しなければならない。

5. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的東西比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
	日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
	言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいは、その相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中の文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
	比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

	専攻名	講座名	要 旨
比較文化学専攻		比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
		科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達基礎論	種としての人間発達の特徴を明らかにするために、個体発生・系統発生上の比較考察から出発して、胎児期より老年期に至るまでの発達過程、各発達段階の特性、発達要因などの解明を目指すとともに、歴史的・人間学的考察にたつて総合的な発達目標の検討を行う。
		発達過程論	生涯にわたる人間発達の過程を、保育・教育・臨床等の実践との関連のもとに研究を行う。心理治療、保育の理論、診断、治療、実践の技法、家庭・集団・文化と人間発達との関連の諸問題を含む。
		発達環境論	人間発達と社会環境との関連を歴史的・地域的・国際的比較研究によって解明し、発達の各時期に対応する発達課題と教育課題を探究する。人間発達に影響を及ぼす意図的制度的な教育機関、内容及び非制度的な教育機会について、全体的、体系的に研究し、発達の機会を保障していく理論と方法の確立を目指す。
		女性学	人間社会における女性のあり方及び男性のあり方を特に女性に着目しつつ総合的・学際的に研究する。1970年代以来の女性学関連領域の研究実績を踏まえ、変動する国際社会の現実の中で文化の多様性・個別社会の自律性・個人の価値観の多様性を尊重しつつ発達する人間のあり方を探究することを目指す。

専攻名		講座名	要 旨
人間 環境 学 専 攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
		生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
		環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。

6. 担当専任教官

専攻名	講座名	担当指導教官				専攻名	講座名	担当指導教官			
比較 文化 学 専 攻	文化構造論	教授	宮島	喬保	比較 文 化 学 専 攻	比較芸術論	教授	片岡	康子		
		"	佐藤	幸雄			"	遠藤	秀一郎		
		"	尾田	幸雄			"	藤山	和子		
		"	中村	幸子	"	辻	佐保子				
		"	田中	真砂子	"	板倉	壽郎				
		"			"	徳丸	吉彦				
		"			"	小池	三枝				
	日本文化論	教授	平野	由紀子	比較 社会 構造 論	教授	窪添	慶文			
		"	三木	紀人	"	"	石川	宏行			
		"	浅井	信子	"	"	山本	秀夫			
	助教	安田	信次	郎生	"	"	内藤	博忠			
		"	安古	夏秀	助教	栗	遅塚	尚子			
		"	市風	秀雅							
	言語文化論	教授	宮川	幸久	科学 文化 論	教授	小川	洋輔			
		"	海老根	静之	"	"	渡山	七サ子			
		"	酒本	雅秀	"	"	小細	敏治			
		"	野島	秀正	"	"	富矢	永靖			
	助教	内田	正	子茂	"	"	澤島	侑貞			
		"	相原		講師	亀	和井	男理			

専攻名	講座名	担当指導教官	専攻名	講座名	担当指導教官
人間発達学専攻	発達基礎論	教授 土屋賢二 " 飯上長喜 " 上野浩一 " 春森日下 " 森内藤はるみ 助教授 内藤俊史	人間発達学専攻	発達環境論	教授 宮原修夫 " 森小川隆 " 小湯加賀雅秀 " 加賀秀夫
	発達過程論	教授 黒田淑子 " 水本和子 " 本内伸子 助教授 鷹野光行		女性学	教授 原ひろ子 " 大石勇次 " 石袖節孝 助教授 篠塚英かおる
人間環境学専攻	人間生態論	教授 富田守碩 " 清能水次 " 馬場昭兵衛 " 田宮山善兵衛 " 遠内嶋	人間環境学専攻	環境基礎論	教授 功翠子 " 厚勲武彦 " 正秀行 " 秀文明子 " 柴藤修 助教授 藤枝
	生活環境論	教授 小林夫 " 中島誠 " 前田淳 " 荒川侯 " 本倉信 " 倉五清 " 小十忠 " 小川昭二			

○平成5年度お茶の水女子大学公開講座

1. 講座名 「水」

「水」は不思議な物体です。様々な性質、働きをもっており、人間生活には不可欠なものであるばかりか、生活面においても様々な影響を及ぼしています。

また、地球規模で環境問題が大きな課題となっている今日、「水」もまた忘れてはならない重要な要素です。

水のもつ多様な側面を、歴史、文学、生態、植物、食品、衣住環境、物理などから総合的に学ぶことによって、環境の保全問題や人間生活における始原物質としての「水」に対する理解を深めていただければと思います。

日 程 平成5年9月11日(土)、9月18日(土)、9月25日(土)、10月2日(土)、10月9日(土)

時 間 13時30分～16時40分

会 場 お茶の水女子大学一般教育2号館

受講料 6,100円

2. 講座名 「江戸」

ここ数年来「江戸ブーム」と言われている。江戸文化に対する一般の関心の深さは、20世紀末を迎えた日本人が、もう一度「日本とは何か」を問い直す姿勢から生まれている。現在なお東京のなかに見られる江戸の名残を手がかりに、江戸という都市空間の構造と機能から、暮らしの充実感を支える遊戯的な仕組みまで、きめ細かいアプローチを試みたい。本講座は、単に失われたものへの懐古的心情だけでなく、江戸文化の豊かさをとおして、現代が失ったものを反省し、調和的な未来への大きな示唆となることを期している。

日 程 平成5年10月16日(土)、10月23日(土)、10月30日(土)、11月13日(土)、11月20日(土)

時 間 13時30分～16時40分

会 場 お茶の水女子大学一般教育2号館

受講料 6,100円

問い合わせ先 お茶の水女子大学学務課教務係

○平成5年度科学研究費補助金配分決定一覧

研究種目	研究代表者 所属・職名	氏 名	決定額 (千円)	研 究 課 題
重点領域(1)	理学部教授	平野恒夫	22,600	量子化学計算による星間分子の構造と化学反応の理論的予測
"	理学部教授	細矢治夫	18,000	分子集合体の化学反応理論
"	生活科学部助教授	無藤隆	1,600	自己と他者の知識の獲得と言語獲得との関連性：0歳から2歳までの縦断的研究
重点領域(2)	生活科学部助教授	無藤隆	1,800	身体的情緒情報の働き：乳児期母子間のコミュニケーションにおける情緒と認知の関連
"	理学部助教授	長嶋雲兵	1,600	超臨界流体の計算機シミュレーションのためのポテンシャル関数の研究
"	理学部教授	真島秀行	1,900	合流型幾何微分方程式の不変量とJonesの指数について
"	理学部助手	松浦悦子	1,700	ショウジョウバエを用いたミトコンドリア伝達の制御機構の研究
"	理学部助教授	今野美智子	1,600	tRNAとaaRSの複合体形成の初期過程としてアンチコドンの識別機構の重要性

研究種目	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
重点領域(2)	理学部助手	室伏 きみ子	3,000	新しいストレスタンパク質HSP66の細胞分化における役割とその発現調節機構
総合研究(A)	生活科学部教授	袖井 孝子	3,000	教職員の生涯生活設計に関する実証的研究
"	生活科学部助教授	無藤 隆	1,900	幼稚園および小学校における環境と子どもの活動の研究
"	文教育学部教授	宮島 喬	4,100	地域社会における外国人労働者受入れの日欧比較研究
一般研究(B)	女性文化研究センター教授	原 ひろ子	800	女性の一生の変遷に関する研究 -山形県朝日町における労働・出産・育児と地域社会への影響力-
"	理学部教授	伊藤 厚子	900	交換相互作用競合系における時空尺度依存の性質
"	生活科学部教授	島田 淳子	700	調理機能のシステム化に関する基礎的研究-伝熱特性が食品に及ぼす影響について-
"	理学部教授	富永 靖徳	5,400	水の構造ゆらぎと基礎的物性
"	理学部助教授	長嶋 雲兵	6,700	分子クラスター中での化学反応の計算化学的研究方法の開発とその応用
"	生活科学部助教授	畑江 敬子	4,900	水産物の季節変化と嗜好性の関係
"	理学部教授	遠山 益	2,900	イネの光合成器官の微細構造と機能に関する研究
一般研究(C)	理学部助手	室伏 きみ子	300	核マトリックスにおけるDNA合成とその制御機構
"	文教育学部助教授	秋山 光文	400	インドにおける仏教説話図像の成立と展開に関する基礎研究
"	理学部教授	太田 隆夫	500	興奮性を示す反応拡散系のパターンダイナミックス
"	理学部教授	前田 侯子	500	固液界面の関与する新しい発光系の開発と応用
"	生活環境研究センター教授	五十嵐 脩	800	n-6, n-3系列必須脂肪酸代謝に及ぼす香辛料成分の影響
"	生活環境研究センター教授	大橋 昌子	600	バターミルクに含まれる新しい糖含有リン脂質の構造と生理活性
"	文教育学部助教授	石口 彰	1,500	伝達効率を指標とした運動・立体視覚情報の統合過程の特性
"	文教育学部助教授	安田 次郎	800	中世都市としての奈良の成立・展開・解体過程の研究
"	文教育学部助教授	今西 典子	800	束縛理論に関する研究
"	理学部教授	藤原 正彦	1,800	代数多様体上の有理点の分布
"	理学部教授	小川 洋輔	800	リーマン多様体の幾何学

研究種目	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
一般研究(C)	理学部教授	澤島侑子	2,000	順序を保存する作用素の解析
"	理学部教授	菅本晶夫	1,200	ウィークボソン対生成過程における重いニュートリノの効果
"	理学部教授	田中翠	2,000	時間分解メスバウア分光法の開発とそれによるランダム磁性体の非平衡緩和の観測
"	理学部助手	最上善広	1,800	繊毛運動におけるシグナル伝達機構
"	生活科学部助教授	松浦秀治	1,400	古人骨のAMS放射性炭素年代測定に関する分析試料の少量化
"	生活科学部教授	黒田淑子	700	日常生活にひらかれた心理劇の基礎的・応用的研究—多種多様な展開の共通性, 独自性
"	生活科学部教授	荒川信彦	2,000	骨の老化予防に対するビタミンCの効果
"	生活科学部教授	本間清一	2,100	レクチンによる糖鎖部分の検出を用いる殺菌と魚醤の色素の識別
"	生活科学部助教授	久保田紀久枝	1,300	センサーによる嗅覚嗜好評価へのアプローチ
"	生活科学部助教授	徳井淑子	700	服飾における懐古趣味—フランス・ロマン主義と異装
"	生活科学部教授	富田守	1,400	老人と若者の生活行動における身体機能・意識・行動・かかわる物の統合的研究
"	理学部教授	能村堆子	600	鞭毛軸系機能の再構成をめざして
"	文教育学部教授	内田伸子	1,000	幼児期の語意獲得と概念カテゴリーの形成の関係—助数詞の獲得と助数詞の指示対象の概念カテゴリーの分化の過程
"	文教育学部助教授	耳塚寛明	600	進路選択とジェンダー・メリトクラティックな選抜とかくれたセクシズム
"	文教育学部教授	森下はるみ	1,200	伝統的舞踊の動作単元の分類と記号化の試み
"	理学部助教授	藤枝修子	2,000	化学振動反応の電気化学的制御と熱・電位挙動の実験的研究
奨励研究(A)	文教育学部助手	山本直美	900	日本人と外国人留学生との接触場面における異文化理解の発展に関する調査研究
"	理学部助手	大場清	900	低次元多様体の位相的性質
"	生活科学部助教授	田邊新一	900	床吹き出し空調システムの室内温熱環境に関する研究
"	生活科学部講師	山本政人	900	幼児の対人関係がコミュニケーションに及ぼす影響
"	生活科学部助手	寺沢なお子	800	微生物による脱色機構を利用した食品の褐色色素の分類
"	生活科学部助教授	仲西正	900	光に対して機能性を持つ生活材料開発に関する基礎的研究

研究種目	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
奨励研究(A)	人間文化研究科 助	直井文子	900	近世後期の上州藩主・板倉勝明の文学の研究
合 計			122,100	

研究種目	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
特別研究員 奨励費	文教育学部 特別研究員(PD)	澤野泉	800	中世における祭礼・行事の成立・発展とその意義
〃	人間文化研究科 特別研究員(DC)	定松文	900	ECの中のコルシカにおける地域問題とエスニシティ
〃	人間文化研究科 特別研究員(PD)	南晃子	800	スコットランド北東部の流浪民の音楽と音楽観
〃	生活科学部 特別研究員(PD)	外山紀子	800	手続きの学習と、その説明に使われる知識
合 計			3,300	

諸 報

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
女性文化研究 センター・教授	原ひろ子	中華人民共和国	論博研究者の研究指導のため	5. 6. 26～ 5. 7. 7	外国出張
生活科学部 ・助教授	田邊新一	フィンランド共和国	INDDOR AIR 93国際会議での 論文発表のため	5. 7. 4～ 5. 7. 11	外国出張
理学部・教授	藤原正彦	連合王国 ベルギー王国	大学間協定締結交渉と研究連絡 のため	5. 7. 7～ 5. 7. 23	外国出張
文教育学部 ・助教授	鷹野光行	イタリア共和国	ラツィオ州タルクィニア所在の ローマ帝政期別荘遺跡発掘調査	5. 7. 20～ 5. 10. 9 (帰国予定)	外国出張
生活科学部 ・助教授	田邊新一	大韓民国	釜山水産大学校での講演のため	5. 7. 25～ 5. 7. 30	外国出張
文教育学部 ・助教授	熊谷圭知	バブア・ニューギニア	バブア・ニューギニア低地における伝 統的環境利用の変化と人口移動	5. 8. 2～ 5. 8. 23	外国出張
生活科学部 ・助教授	久保田紀久枝	マレーシア	試料採集および共同研究打合せ	5. 8. 3～ 5. 8. 6	外国出張
理学部・教授	富永靖徳	アメリカ合衆国	第8回国際強誘電体会議(IMF- 8)出席・発表	5. 8. 7～ 5. 8. 20	外国出張

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
理学部・教授	伊藤厚子	カナダ	メスバウア効果応用国際会議に出席・発表、及びブリティッシュ・コロンビア大学において研究打合せ・討論	5. 8. 7～ 5. 8. 21	外国出張
女性文化研究センター・助教授	館かおる	ニュージーランド オーストラリア	女性政策及び女性の参画と女性学の研究のため	5. 8. 11.～ 5. 8. 30 (帰国予定)	外国出張
理学部・助教授	森川雅博	カナダ アメリカ合衆国	ワークショップ参加、研究打合せ	5. 8. 13～ 5. 9. 12 (帰国予定)	外国出張
理学部・助教授	浜谷望	アメリカ合衆国	高圧科学技術国際連合／アメリカ物理学会ジョイント会議の出席・発表	5. 6. 25～ 5. 7. 4	海外研修
附属中学校 ・教諭	小宮幸夫	中華人民共和国	小・中学校における音楽教育セミナー講師として（日本の音楽教育の現状）	5. 7. 18～ 5. 7. 25	海外研修
文教育学部 ・講師	駒込武	ポルトガル共和国 連合王国	国際教育史学会での研究発表および資料調査	5. 7. 18～ 5. 8. 1	海外研修
理学部・教授	内嶋善兵衛	エストニア共和国	1. エストニア気象学・水文学研究所での研究交流 2. エストニア自然科学会名誉会員証受領	5. 8. 1～ 5. 8. 11	海外研修
文教育学部 ・助教授	内田正子	連合王国	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館および大英図書館における研究資料収集	5. 8. 2～ 5. 8. 18	海外研修
理学部・助手	森本せつ	カナダ	メスバウア効果応用国際会議に出席・研究発表のため	5. 8. 6～ 5. 8. 19	海外研修
文教育学部 ・講師	駒込武	中華人民共和国	中国東北教育史国際学術討論会での研究発表および資料調査	5. 8. 8～ 5. 8. 15	海外研修
附属小学校 ・教頭	古市憲一	カナダ アメリカ合衆国	INSEA世界大会出席のため	5. 8. 12～ 5. 8. 21	海外研修
附属小学校 ・教諭	降旗孝	カナダ アメリカ合衆国	INSEA世界大会出席のため	5. 8. 12～ 5. 8. 24	海外研修
理学部・助手	松浦悦子	連合王国	第17回国際遺伝子学会出席のため	5. 8. 15～ 5. 8. 24	海外研修
文教育学部 ・助手	松村朋子	アメリカ合衆国	ポスト・モダンダンスに関する資料収集と、ロサンゼルス・フェスティバル取材	5. 8. 15～ 5. 9. 15 (帰国予定)	海外研修
理学部・助教授	浜谷望	中華人民共和国	第16回国際結晶連合会議にて招待講演	5. 8. 20～ 5. 9. 6 (帰国予定)	海外研修
文教育学部 ・助教授	羽入佐和子	ロシア共和国	第19回世界哲学会議に出席	5. 8. 21～ 5. 8. 29	海外研修
文教育学部 ・教授	森下はるみ	中華人民共和国	学術訪問（論博研究者の研究指導）	5. 6. 26～ 5. 7. 7	海外研修
生活科学部 ・教授	袖井孝子	ハンガリー人民 共和国 スイス連邦	国際老年学会議出席（報告）および国際機関訪問	5. 7. 3～ 5. 7. 14	海外研修

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
人文科学研究科 ・助教授	長友和彦	オーストラリア	学会(1933JSAA conferenc) 発表およびモナシユ大学訪問のため	5. 7. 4～ 5. 7. 14	海外研修
理学部・教授	太田隆夫	アメリカ合衆国 カナダ	「相転移のダイナミクス」に関する 共同研究および「秩序形成のダイ ナミクス」国際会議出席・講演	5. 7. 7～ 5. 7. 18	海外研修
文教育学部 ・助教授	宮尾正樹	中華人民共和国	外国人中国語教師短期研修参加、 および中国現代文学資料収集	5. 7. 9～ 5. 8. 21	海外研修
理学部・教授	佐藤浩史	連合王国 デンマーク王国	第4回原子衝突日英セミナーお よび第18回電子・原子衝突物理 国際会議	5. 7. 12～ 5. 7. 29	海外研修

○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	終了者	主 催
第20回関東地区係長 研修	平成5年6月15日 ～6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・国家公務員採用初級試験 若しくは中級試験により 採用された者又はこれら と同等と認められる者 ・施設等機関及び地方支分 部局の係長又はこれと同 等と認められる者 ・年齢40歳未満の者 ・勤務成績が優秀な者 <p>以上の条件を満たし、各 機関から推薦され当該事 務局長が受講を認めた者</p>	庶務課・ 附属学校係長 清水 孝一	人 事 院
平成5年度国立大学 等国際交流担当職員 研修	平成5年6月21日 ～6月24日	国立大学等で国際交流を 担当する職員	庶務課・庶務係員 浜村 知枝	文 部 省 学術国際局
平成5年度大学図書 館職員長期研修	平成5年7月19日 ～8月6日	大学図書館において、図 書館職員として専門的業 務に10年以上(大学卒業 者にあつては5年以上) の経験を有し、おおむね 40歳以下で所属大学の学 長の推薦する定員内職員	附属図書館・ 情報システム係員 高橋ひとみ	文 部 省 学術国際局

○レクリエーション行事

行 事 名	実施日時	参加者数	内 容 ・ 入 賞 者	実施場所
平成5年度職員 映画鑑賞 (第1回)	平成5年 7月22日～ 8月31日	125人	<p>題名</p> <p>「ジュラシック・パーク」「嵐ヶ丘」 「REX・恐竜物語」「アラジン」 「ザ・ファーム」「愛を弾く女」 「ラスト・アクション・ヒーロー」 「トライアル/審判」「水の旅人・ 侍KIDS」「クレヨンしんちゃん」</p>	都内近郊映画館
平成5年度職員 水族館見学	平成5年 7月22日～	25人	日本最大級の水族館の見学。高さ 8メートルの大水槽を浅海から海底 へ、ダイバー気分海中散歩できる 世界初の水中エスカレーターを設置。	横浜・八景島 アクアミュージアム

○給与等に関する勧告について

人事院は平成5年8月3日国会及び内閣に対し、一般職の給与等に関し、次のように勧告した。

勧 告 (抄)

次の事項を実現するため、一般職の職員の給与等に関する法律(昭和25年法律第95号)を改正することを勧告する。

1 改定の内容

(1) 俸給表

現行の俸給表を別記のとおり改定すること。

(2) 諸手当

ア 初任給調整手当について

(ア) 医療職俸給表(-)の適用を受ける医師及び歯科医師に対する支給月額の限度を294,000円とすること。

(イ) 医療職俸給表(-)以外の俸給表の適用を受ける医師及び歯科医師で、医学又は歯学に関する専門的知識を必要とする官職にあるものに対する支給月額の限度を50,100円とすること。

イ 扶養手当について

(ア) 配偶者以外の扶養親族のうち3人目からの者に係る手当の月額を1人につき2,000円とすること。

(イ) 扶養親族である子のうちに満15歳に達する日後の最初の4月1日以降にある子がいる場合には、手当の月額を当該子1人につき1,000円を加算した額とすること。

ウ 住居手当について

借家・借間に係る手当について、家賃の月額と12,000円との差額が11,000円を越えるときに加算することとされている2分の1加算の限度額を月額16,000円とすること。

エ 単身赴任手当について

職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離の区分に応じて加算することとされている額の限度を月額29,000円とすること。

オ 超過勤務手当及び休日給について

(ア) 超過勤務手当の支給割合を、正規の勤務時間を割り振られた日(休日に当たる場合を除

く。)における超過勤務とその他の日における超過勤務との別に100分の125以上100分の150以下の範囲内で人事院規則で定める割合とすること。ただし、その勤務が午後10時から翌日の午前5時までの間である場合は、当該人事院規則で定める割合に100分の25を加えた割合とすること。

(イ) 休日給の支給割合を100分の125以上100分の150以下の範囲内で人事院規則で定める割合とすること。

カ 期末手当について

3月及び12月に支給される期末手当の支給割合をそれぞれ0.5月分及び2.0月分とすること。

2 改定の実施時期

この改定は、平成5年4月1日から実施すること。ただし、1の(2)のオについては、平成6年4月1日から実施すること。

別記

行政職俸給表

イ 行政職俸給表(-)

職務 の級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	9 級	10 級	11 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
1	—	—	179,200	209,500	226,500	246,100	264,800	285,300	319,000	357,300	406,300
2	130,700	164,900	185,100	217,400	235,000	254,800	273,700	294,900	330,800	369,700	421,100
3	134,900	171,500	191,400	225,500	243,700	263,500	282,900	304,700	342,600	382,300	436,200
4	139,300	178,400	197,800	234,000	252,100	272,200	292,100	314,900	354,400	394,900	451,300
5	144,200	184,000	204,700	242,600	260,300	281,000	301,600	325,100	366,300	407,800	466,500
6	149,800	188,700	212,300	250,900	268,500	289,800	311,200	335,200	378,300	420,500	481,800
7	155,600	193,400	219,700	259,000	276,800	298,800	321,000	345,300	390,600	433,200	497,400
8	161,300	198,000	226,900	267,000	285,000	308,100	330,800	355,400	402,900	445,900	513,200
9	165,600	202,300	233,200	274,900	293,200	317,400	340,700	365,500	415,200	458,600	528,700
10	169,000	206,600	239,300	282,800	301,500	327,100	350,500	375,600	426,900	471,200	544,100
11	171,900	211,000	245,300	290,600	309,700	337,000	360,200	385,700	438,300	482,400	556,200
12	174,500	215,300	251,000	298,300	317,700	346,800	369,600	395,700	449,500	492,800	564,100
13	177,100	219,600	256,700	305,800	325,700	356,500	378,700	405,700	459,100	501,600	571,700
14	179,300	222,900	262,000	313,300	333,400	365,900	386,800	415,300	467,000	508,800	577,900
15	181,400	226,000	267,100	320,100	339,700	374,400	393,900	423,000	474,800	513,400	582,700
16	183,000	229,100	272,100	326,500	345,600	381,300	400,400	430,300	480,200		
17		232,200	276,600	331,200	350,900	387,900	406,100	435,200	484,800		
18		235,100	280,500	335,400	355,300	392,500	411,000	439,800	489,100		
19		237,100	284,100	339,500	359,400	397,000	415,600	444,200			
20			287,000	342,500	363,200	401,500	420,000	448,100			
21			289,800	345,400	366,500	405,900	423,900	451,900			
22			292,500	348,200	369,800	410,000	427,600				
23			295,200	351,200	373,200	413,700					
24			297,700	354,300	376,500	417,300					
25			300,200	357,200	379,300						
26			302,600	360,000	382,100						
27			305,000	362,400							
28			307,400	364,800							
29			309,800								
30			312,100								
31			314,300								
32			316,500								

□ 行政職俸給表(二)

職務 の級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円	円	円
1	—	159,300	176,700	193,100	217,500	244,700
2	117,100	165,700	182,100	198,700	224,100	251,700
3	120,800	171,200	187,600	204,700	230,700	258,800
4	124,300	176,600	193,100	211,000	237,400	266,500
5	127,700	181,400	198,600	217,400	244,100	274,200
6	131,600	186,200	204,500	223,800	250,700	282,300
7	136,200	191,000	210,500	229,700	257,100	290,500
8	140,800	195,800	216,400	235,400	263,000	298,900
9	146,500	200,600	222,300	241,100	268,700	307,300
10	152,400	205,600	228,100	246,700	274,300	315,500
11	159,100	210,600	233,500	251,900	280,000	323,600
12	165,500	215,400	238,800	257,000	285,700	331,700
13	170,900	220,200	244,000	262,100	291,400	339,600
14	175,900	224,800	248,900	267,200	297,000	346,700
15	180,300	229,400	253,800	272,200	302,600	353,700
16	184,500	233,600	258,600	277,400	308,000	360,600
17	188,500	237,500	263,600	281,900	313,300	367,300
18	192,400	241,400	268,600	286,300	318,200	373,400
19	195,700	245,100	273,200	290,100	322,800	379,000
20	198,400	247,800	277,500	293,700	327,100	384,100
21	201,200	250,100	280,700	297,100	331,200	389,000
22	204,100	252,500	283,700	300,500	335,100	393,300
23	206,900	254,700	286,400	303,600	338,000	396,700
24	209,600	256,900	289,100	306,700	340,800	
25	212,000	259,000	291,500	309,500	343,300	
26	214,200	261,100	293,900	312,200	345,700	
27	216,400	263,400	296,300	314,700	348,100	
28	218,600	265,600	298,700	317,000		
29	220,700	267,700	301,000	319,200		
30	222,700	269,700	303,300	321,400		
31	224,600	271,700	305,300			
32	226,400	273,600				
33		275,500				

教育職俸給表

イ 教育職俸給表(一)

職務の級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円	円
1	—	—	240,200	273,700	343,900
2	156,200	196,100	248,800	284,500	355,700
3	163,800	204,400	257,600	295,300	367,600
4	173,300	212,800	266,600	306,100	379,600
5	183,100	221,400	276,200	317,000	391,800
6	190,600	230,100	285,900	328,100	403,700
7	197,800	238,800	296,000	339,000	415,600
8	205,000	247,400	306,200	349,900	427,500
9	212,600	256,000	316,000	360,800	439,400
10	221,000	264,700	325,700	371,600	451,300
11	227,700	273,600	335,300	382,200	463,300
12	235,800	282,400	344,900	391,700	475,600
13	243,600	291,100	354,600	401,000	488,000
14	251,100	298,700	364,300	410,200	500,500
15	258,000	306,300	373,800	419,100	513,300
16	264,800	313,100	382,900	427,600	525,700
17	271,100	319,700	391,800	435,800	536,800
18	277,400	326,300	400,200	443,900	547,800
19	283,600	332,800	408,400	451,700	558,500
20	289,500	339,100	416,400	459,300	568,600
21	295,300	345,400	424,100	466,900	577,700
22	300,800	351,700	431,700	474,400	584,700
23	305,900	357,900	438,500	481,200	589,800
24	311,000	364,000	445,200	487,900	594,600
25	315,100	370,000	450,000	494,000	
26	319,200	375,300	453,900	498,300	
27	323,000	379,400	457,800	501,900	
28	326,700	383,100	461,700	505,400	
29	329,500	386,700	465,000		
30	332,200	390,300	468,200		
31	334,900	393,900			
32	337,600	397,500			
33	340,200	401,000			
34	342,800	404,200			
35	345,400	407,300			
36	347,900	410,300			
37	350,300				
38	352,700				

ロ 教育職俸給表(二)

職務の級	1 級	2 級	3 級	4 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円
1	—	—	294,100	392,300
2	143,100	184,700	303,900	402,400
3	149,400	191,400	313,700	412,600
4	156,200	198,000	323,500	422,700
5	163,700	204,900	333,300	432,900
6	172,300	211,900	343,100	443,200
7	181,300	219,200	352,900	453,500
8	187,800	226,600	362,700	463,800
9	194,300	234,300	372,500	474,300
10	200,700	242,400	382,500	485,000
11	207,200	250,700	392,400	495,600
12	213,800	260,000	402,300	505,300
13	220,700	269,300	411,800	513,900
14	227,900	278,600	421,200	521,600
15	235,200	288,000	430,600	526,200
16	242,700	297,400	439,900	
17	250,000	306,800	449,200	
18	257,300	316,500	458,500	
19	264,500	326,100	467,800	
20	271,000	335,700	476,400	
21	277,400	345,100	484,800	
22	283,500	354,500	492,900	
23	289,500	363,900	499,900	
24	295,500	373,300	504,100	
25	301,500	382,200		
26	307,500	390,500		
27	313,400	398,800		
28	319,300	407,200		
29	324,900	415,500		
30	329,100	422,600		
31	333,100	429,600		
32	336,900	435,400		
33	340,400	440,600		
34	343,200	445,500		
35	345,900	450,000		
36	348,500	453,000		
37	351,000			
38	353,500			
39	355,700			
40	357,900			

ハ 教育職俸給表(三)

職務の級	1 級	2 級	3 級	4 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円
1	—	—	255,000	388,000
2	143,100	158,300	264,700	397,000
3	149,400	166,200	274,500	406,000
4	156,200	174,800	284,300	415,000
5	163,700	184,700	294,100	424,100
6	172,300	191,400	303,900	433,300
7	181,300	198,000	313,700	442,600
8	187,800	204,900	323,500	451,500
9	194,200	211,900	333,300	459,700
10	200,500	219,200	343,000	467,700
11	206,600	226,600	352,700	475,400
12	212,800	234,300	361,700	483,000
13	219,100	242,400	370,500	489,600
14	225,900	250,700	379,300	494,900
15	232,400	260,000	388,100	499,000
16	238,900	269,300	396,600	
17	245,100	278,600	405,000	
18	251,300	288,000	413,500	
19	257,400	297,400	421,900	
20	263,200	306,800	430,300	
21	268,600	316,500	438,200	
22	273,900	326,000	445,100	
23	278,800	335,500	451,600	
24	283,500	344,800	456,900	
25	287,300	353,300	461,400	
26	291,100	361,700	465,200	
27	294,500	369,900	468,400	
28	297,500	377,800	471,400	
29	300,100	385,500		
30	302,600	392,500		
31	304,900	399,500		
32	307,300	406,300		
33	309,400	412,500		
34		418,600		
35		423,900		
36		428,500		
37		432,900		
38		436,700		
39		439,300		

□ 医療職俸給表(二)

職務 の級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円	円	円	円	円
1	—	—	197,700	219,600	254,700	294,800	329,100	394,900
2	135,100	170,000	204,100	227,400	263,800	304,600	340,800	407,600
3	140,500	176,200	210,900	235,500	272,900	314,400	352,600	420,400
4	147,000	182,500	218,500	243,700	282,100	324,200	364,500	433,600
5	153,500	188,700	226,200	251,900	291,300	334,000	376,400	446,900
6	160,500	194,700	234,200	260,100	300,500	343,900	388,500	460,200
7	167,600	200,700	242,200	268,300	309,900	353,900	401,000	474,200
8	173,500	206,700	250,200	276,700	319,500	364,000	413,600	488,500
9	179,400	213,200	258,300	285,000	329,100	374,300	425,800	502,400
10	184,300	220,300	266,300	293,500	338,800	384,700	437,600	516,000
11	189,200	227,200	274,300	302,000	348,600	394,900	449,200	524,200
12	193,900	233,600	282,300	310,300	357,900	405,100	459,100	531,700
13	198,400	239,800	290,200	318,600	367,000	414,900	467,000	538,700
14	202,500	246,000	298,100	326,700	375,500	422,800	474,800	545,400
15	206,800	251,800	305,900	334,700	382,700	430,200	482,300	550,800
16	211,200	257,400	313,600	341,100	389,600	435,200	486,800	555,300
17	215,500	262,700	320,800	347,100	395,500	439,800	491,100	
18	219,800	267,900	327,600	353,000	401,200	444,200		
19	223,200	272,800	332,700	357,300	406,000	448,100		
20	226,300	277,500	337,400	361,500	410,400	451,900		
21	229,300	281,100	341,400	365,600	414,700			
22	231,700	283,900	344,600	369,300	418,400			
23	233,700	286,700	347,600	372,800	422,000			
24		289,300	350,500	376,000				
25		291,800	353,400	378,900				
26		294,000	356,200	381,700				
27		296,200	359,000	384,500				
28			361,500					
29			363,900					
30			366,300					

ハ 医療職俸給表(三)

職務 の級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級
号 俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
	円	円	円	円	円	円	円
1	—	—	213,000	233,600	263,500	298,500	331,100
2	147,800	173,800	219,000	240,600	271,700	308,000	342,900
3	153,200	181,800	226,200	247,700	280,000	317,700	354,700
4	159,000	190,000	233,300	254,800	288,100	327,700	366,500
5	164,800	195,700	240,300	261,900	296,200	337,700	378,500
6	172,800	201,300	247,300	269,200	304,500	347,700	390,900
7	180,800	206,900	254,300	276,500	312,700	357,800	403,500
8	188,700	212,700	261,300	283,800	320,900	368,000	415,800
9	193,500	218,700	268,300	291,200	328,800	378,300	428,000
10	198,300	225,500	275,400	298,900	336,800	389,000	440,100
11	203,100	232,500	282,500	306,600	344,900	399,800	452,200
12	208,000	239,500	289,700	314,200	353,000	410,200	463,200
13	213,100	246,500	296,900	321,700	361,100	420,400	472,600
14	218,000	253,500	304,300	329,200	369,400	430,300	481,800
15	223,400	260,400	311,600	336,700	377,700	440,200	490,400
16	228,900	267,200	318,700	343,900	386,200	449,200	497,900
17	234,300	273,900	325,600	351,200	394,100	458,000	502,900
18	239,700	280,500	332,500	358,400	401,100	466,300	507,200
19	245,000	286,700	339,200	365,600	406,700	473,700	511,200
20	250,300	292,800	345,900	371,900	411,800	478,600	
21	255,300	298,900	352,600	377,800	416,800	482,800	
22	260,300	305,000	358,900	383,600	420,900	486,500	
23	264,800	311,100	364,500	388,100	424,400		
24	269,200	317,200	369,800	392,300	427,100		
25	273,500	322,800	374,600	396,000			
26	277,700	327,900	378,500	399,600			
27	281,500	332,300	382,300	402,600			
28	285,100	336,600	385,500	405,200			
29	288,000	340,700	388,500				
30	290,800	343,400	391,300				
31	293,500	346,100	393,800				
32	296,200	348,700					
33	298,800	351,300					
34	301,300	353,900					
35	303,700	356,300					
36	306,000	358,700					
37	308,200	361,100					
38	310,400	363,500					
39	312,600						

指定職俸給表

号 俸	俸 給 月 額
	円
1	568,000
2	629,000
3	699,000
4	776,000
5	836,000
6	898,000
7	980,000
8	1,060,000
9	1,138,000
10	1,218,000
11	1,290,000
12	1,317,000

別記備考

- 1 各俸給表の備考は、現行どおりとする。
- 2 改定後の俸給表適用の日における職員の職務の級及び号俸は、その適用の日の前日における職務の級及び号俸と同一とする。

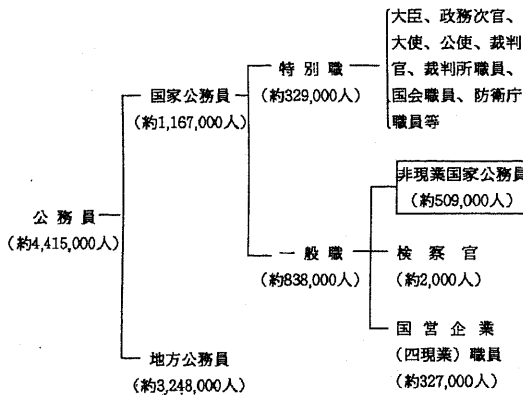
給与勧告についての説明

平成5年8月3日
人事院

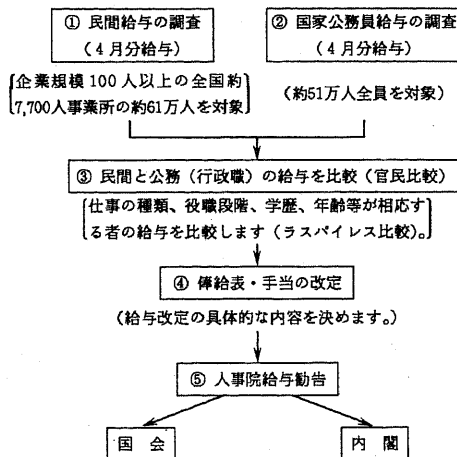
1 人事院の給与勧告

人事院の給与勧告は、「一般職の職員の給与等に関する法律」の適用を受けるいわゆる非現業の国家公務員約51万人を対象としています。これらの職員は労働基本権の制約を受け、自らの勤務条件の決定に直接参加できないため、その代償措置として人事院が給与の改定に関する勧告を国会と内閣に対し行うこととされています。人事院は国家公務員の給与について民間に準拠すること、すなわち国家公務員の給与を民間の給与水準と均衡させることを基本として勧告を行ってきています。

また、人事院は、給与勧告を行うに当たっては、各界の多くの方々から意見を拝聴しております。



給与勧告の手順



2 本年の給与勧告の概要

(1) 官民給与の較差

本年4月時点の官民給与をラスバイレス方式により比較したところ、民間給与が公務員給与を1人当たり平均6,286円(1.92%)上回っていました。

この6,286円の給与改善原資を、俸給の改善に5,538円、手当の改善に387円、その他に361円配分しています。

民間給与 [公務の職員構成] に合わせたもの		公務員給与 [行政職(-)・(-)]	
333,085円	較差6,286円 (1.92%)	改善 326,799円	内訳
本給		俸給	俸給 5,538円
手当		手当	手当 387円
			その他 361円
			計 6,286円

- ① 1. 行政職俸給表(-)・(-)の適用を受ける職員の平均年齢は39.6歳
- 2. 「その他」とは、調整手当のように俸給等に一定率を乗じた金額を手当額とするものについて、俸給等の改善に伴い自動的に引き上げられる部分をいう。

(2) 給与改定の内容

① 俸給表

本年の改定に当たっては、中堅層職員の改善に重点を置いています。

○ 行政職俸給表(-)の初任給

試験	俸給月額	調整手当を含んだ額 (東京都特別区の場合)
I種 (大学卒)	179,200円 (現行175,300円)	198,912円 (現行194,583円)
II種 (大学卒)	164,900円 (現行161,400円)	183,039円 (現行179,154円)
III種 (高校卒)	134,900円 (現行131,900円)	149,739円 (現行146,409円)

○ 行政職俸給表(-)の級別引上率

級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
引上率 (%)	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	2.0

○ 各俸給表

行政職との均衡を考慮し、民間における同種職種との給与の動向をも参考にして改善を行うことにしています。

なお、改善に当たっては、昨年を引き続いて看護婦、公安職、若手研究員等に配慮しました。

② 手当

扶養手当、住居手当、単身赴任手当、医師に対する初任給調整手当及び期末・勤勉手当を改定することになっています。

○ 扶養手当

民間の支給状況、高校生、大学生等の子を扶養する職員の家計負担の実情などを考慮して、次のとおり改定することになっています。

ア 子等配偶者以外の扶養親族のうち3人目以下

1人につき 月額 2,000円
(現行 1,000円)

イ 満16歳の年度初めから満22歳の年度末までの子

1人につき 月額 1,000円を加算

○ 住居手当

借家・借間居住者に係る手当の額を次のとおり改定することになっています。

(改定後)

家賃額 0	12,000円	23,000円	55,000円
支給額	非支給	全額 〔11,000円 を限度〕	2分の1の額 〔16,000円 を限度〕
			最高支給限度額 (27,000円)

(現行)

家賃額 0	12,000円	23,000円	53,000円
支給額	非支給	全額 〔11,000円 を限度〕	2分の1の額 〔15,000円 を限度〕
			最高支給限度額 (26,000円)

○ 単身赴任手当

単身赴任者の費用負担の実情などを考慮し、交通距離の区分及び加算額を次のとおり改定することになっています。

交通距離 (km)	100未満	100以上	300	500	700
		300未満	500	700	900
加算額					
改定後	-	4,000	8,000	12,000	16,000
現行	-	4,000	8,000	12,000	15,000

900	1,000	1,100	1,300	1,500以上
1,000	1,100	1,300	1,500	
20,000		23,000	26,000	29,000
15,000	18,000			

○ 初任給調整手当

医師の初任給調整手当を次のとおり改定することになっています。

ア 医師・歯科医師の最高支給額(離島、へき地等)

月額 294,000円(現行 285,000円)

イ 医系教官等の最高支給額

月額 50,100円(現行 49,500円)

○ 期末・勤勉手当

本年4月までの1年間における民間の賞与等特別給の支給割合との均衡を図るため、次のとおり支給月数を引き下げることになっています。

年間支給月数 5.30月(現行 5.45月)

3月期の期末手当 0.55月(現行 0.55月)

12月期の期末手当 2.0月(現行 2.1月)

③ 超過勤務手当及び休日給

時間外・休日の割増賃金に関する労働基準法の改正が行われたことを踏まえ、同法に基づく措置に対応して適時適切に改善を行っていくため、その支給割合について、100分の125以上100分の150以下の範囲内で人事院規則で定める割合とすることになっています。

④ 中途採用者の初任給

民間における中途採用者の賃金動向、公務における多様な人材の確保の必要性などを考慮して、中途採用者の初任給決定方法を、経験5年間までは、12月(現行15月)につき1号俸の割合で調整できるように改正することになっています。

⑤ その他

官民給与の比較方法の見直し、初任給の在り方、各在職段階における給与配分について、引き続き検討していくことになっています。

(3) 実施時期

平成5年4月1日(さかのぼって改定)

ただし、超過勤務手当及び休日給に関する改正、中途採用者の初任給決定方法の改正については、平成6年4月1日

3 その他

(1) 公務能率の向上及び研修の充実等

効率的な行政運営、公務能率の増進、行政サー

ビスの向上などに努める必要性について触れています。

また、行政環境の変化に対応するため、公務員は創造力に富む新鮮な発想、幅広い視野、豊かな国際感覚、バランスのとれた感性などを備えていることが求められています。このため、人事院は、採用試験の改善などに加えて、合同研修の充実を図っていくことにしています。さらに、省庁間人事交流等の促進の必要性についても指摘しています。

(2) 勤務時間・休暇制度の今後の方向

完全週休2日制度の勤務時間・休暇制度においては、総実勤務時間の短縮、交替制等勤務職員の健康・福祉に配慮した措置の推進、社会の高齢化・女性の社会進出・核家族化の進展などの下で個人生活と職業生活との調和を図る仕組みの整備等が重要な課題であり、現時点では、

- ① 週40時間勤務制の原則を、法律上明らかにし、船員等の一部の勤務時間を週40時間に短縮すること
- ② 交替制等勤務職員について4週8休の原則を確立し、その実践を推進すること
- ③ 週休日について措置済みの代休制度を、休日（祝日法による休日や年末年始の休日）に勤務した場合にも導入すること
- ④ 社会の変化により家族による介護が求められる場面が多くなってきていること、民間での普及の伸びは著しく既に半数近くとなっていること等を総合勘案し、介護休暇を新設することが必要であると表明しています。

このような認識の下に、昨年の報告で言及した勤務時間・休暇等に関する法制整備の趣旨をも踏まえて、別途、立法措置について意見の申出を行います。

(3) 公務における高齢対策

高齢社会への対応として、公務においても、働く意欲と能力を有する60歳代前半層の職員の公務内雇用の機会を拡大していくことが重要です。今回の報告では、昨年の報告で示した検討事項を踏まえ、次のような基本的な考え方を示しており、公的年金問題の動向などにも留意しつつ、今後更に具体的な検討を進めることにしています。

① 高齢者雇用の形態

- 公務における60歳代前半層の雇用については、現行の定年年齢(60歳)は維持しながら、

新たな再任用の仕組みを導入する形で進めていくこと

- この場合の働き方としては、これまでと同様の仕事に就いたり、あるいは経験を生かす別の仕事に就いたりすることもできるような仕組みとし、給与は、民間の動向等にも留意して、新たな観点から検討していくこと
 - 勤務形態については、隔日勤務、半日勤務等も可能となるような短時間勤務の仕組みを検討していくこと
- ## ② 雇用と年金の在り方
- 公務員の退職年金は公務員制度の一環としての性格を有することに留意しつつ、雇用と年金の適切な連携の要請から、60歳代前半層の雇用に際しては、雇用制度と年金制度の両面から取り組むことが必要であること
- ## ③ その他
- 任務の性質上高齢者雇用に制約のある職種については、その特性に十分配慮して、雇用と退職後所得の在り方を慎重に検討する必要があること
 - 公務における高齢者雇用の検討に当たっては、公務部内の関係者及び職員が、従前の慣行の見直しに真剣に取り組むことによって、公務の能率的な運営に対する国民の期待にこたえていく必要があること

公務員給与改定の勧告に当たって
人事院総裁談話（平成5年8月3日）

- 1 本日、人事院は、国会と内閣に対して、公務員の給与、勤務時間等について報告し、併せてその給与を本年4月から1.92%改定するよう勧告いたしました。
- 2 人事院の公務員給与に関する勧告は、従来から社会経済情勢全般の動向、各方面の意見などを踏まえつつ、民間給与との均衡を図ることを基本として行ってきています。本年も民間給与を精密に調査し、諸事情を総合的に勘案した結果、職員の給与について所要の改定を行うことが必要であると認めました。
- 3 完全週休2日制実施後の勤務時間・休暇に関し、介護休暇制度及び休日代休制度の新設の必要性等について指摘しました。これらについては、別途、意見の申出を行う所存であります。
- 4 活力ある高齢社会へ向けての人事行政施策として、意欲と能力のある高齢職員を引き続き公務内で活用するため、新たな再任用の仕組みを導入することが適当であるという考えを示しました。雇用と年金の適切な連携に留意しつつ、国民各層の理解を得ながら、更に検討を進めたいと考えています。
- 5 行政環境が大きく変化する中で、公務員が省庁の枠や既存の慣行にとらわれない発想を持って行政課題に対応することが重要になってきています。人事院としては、新鮮な発想、幅広い視野、豊かな国際感覚、バランスのとれた感性等を備えた人材を育成するため、合同研修の一層の充実を図っていくこととしています。また、省庁間その他の人事交流も促進していく必要があると考えます。
- 6 人事院の勧告は、公務員が労働基本権の制約を受け、自らの勤務条件の決定に直接参加できる立場にないことの代償措置として行われるものであります。給与勧告は、公務員にとってほとんど唯一の勤務条件改善の機会であり、職場の労使関係の安定にも大きな役割を果たしています。適正な処遇の確保が、職員の士気を高揚させ公正かつ能率的な行政の運営に資することはいうまでもなく、また、公務に優秀な人材を確保する上からも重要であります。

国会及び内閣におかれては、このような事情に深い御理解をいただき、職員が行政の各分野において真摯に職務に精励していること、また、給与勧告の内容が公務員給与を民間給与に追いつかせるもので

あることに留意されて、この勧告の速やかな実施をお願いしたいと思います。

- 7 国民各位におかれては、人事院が行う勧告の意義と給与その他の勤務条件等、公務員の処遇の改善について深い御理解をいただきたいと思います。
- 8 公務員諸君においては、厳しい諸情勢の中で本年の勧告がなされたことに思いを致し、全体の奉仕者であることを自覚して厳正な規律の増進と行政サービスの向上に努め、国民の立場に立った業務運営になお一層積極的に取り組むよう要望します。
- 9 人事院は、人事行政の公正性・中立性を確保するとともに労働基本権制約の代償として公務員の利益を保護することを使命としています。人事院としては、今後とも公務員が全体の奉仕者として国民の期待にこたえ得るよう、公務員制度及びその運用の改善に努めていく所存であります。

日 誌

◇諸 会 議

- 6月22日(火) 部局長会議
女性文化研究センター運営委員会、
サービス及び健康・安全管理担当者研修
会(25日まで 於・合同庁舎)
- 23日(水) 評議会、カリキュラム委員会、学生
委員会広報・就職専門委員会、国立
大学図書館協議会総会(24日まで、
於・徳島)、労務専掌職員協議会
(25日まで)
- 24日(木) 国立大学入試担当課長連絡協議会
(於・金沢大学)、産業会等と研究協
力に係る事務説明会(於・農工大学)
- 25日(金) 国際交流委員会留学生専門委員会、
国立大学入試担当課長連絡協議会
(於・金沢大学)
- 29日(火) 附属図書館運営委員会
- 30日(水) 入学試験委員会、研究科会議
- 7月2日(金) 事務連絡会議
- 5日(月) 実験設備委員会、人文科学紀要編集
委員会
- 8日(木) 将来構想検討委員会、臨海実験所運
営委員会、学生委員会・就職専門委
員会
- 13日(月) 部局長会議、国際交流委員会、主任
会議(3学部)
- 14日(水) 教授会(3学部)
- 15日(木) 共用体育施設等運営委員会
- 20日(火) 部局長会議、生活環境研究センター
運営委員会
- 21日(水) 評議会、学生委員会、理学部自己点
検・評価小委員会、附属学校教育研
究委員会
- 23日(金) カリキュラム委員会
- 8月5日(木) 女性文化研究センター・生活環境研
究センター合同会議

◇行 事 等

- 6月22日(火) 退職準備プログラム等担当者講習会
- 23日(水) 防火管理者講習会(24日まで 於・
小石川消防署)
- 26日(土) 大山寮祭「紫陽祭」(27日まで)
- 30日(水) 外国人留学生懇談会
- 7月2日(金) 平成6年度概算要求技術課ヒヤリン
グ(於・文部省)
- 5日(月) 人事関係事項説明(於・文部省)
- 6日(火) 第2回学生定期健康診断
- 7日(水) 平成6年度概算要求説明(於・文部
省)
- 8日(木) 平成6年度厚生補導関係概算要求説
明(於・文部省)
- 12日(月) 事務局長懇談会(於・文部省)
- 13日(火) 平成6年度概算要求説明(於・文部
省)
- 29日(木) 平成5年度文化系・体育系サークル
リーダーズ研修(30日まで)